第395号
平成30年
6月10日

# すまいるたうん

発行元
東京新聞
南千住専売店
TEL3803-1781
発行責任者
鬼塚　佳代子
TEL090-2657-0300

## 彼を知り、己を知る
## 心の壁を無くして集う
## 多言語パーク

### 「外国人親子と交流しませんか。」

荒川区内の外国人は、1万8千973人います。（平成30年5月1日現在のおよび人口一覧表より）荒川区人口の約8.8%が外国の方です。

多言語パーク（2015年～17年度、荒川区教育力向上支援事業補助団体）は、子どもを中心に外国人親子と多言語で遊んだり、子育てやリフレッシュの時間を共に過ごす異文化交流の集い場です。

「こんにちは、ありがとう」「アンニョン、カムサハムニダ（韓国）」「ハロー、サラマッ（フィリピン）」「ハロー、テリマカシー」（インドネシア）」「ニイハオ、シエシェ（中国）」

挨拶は、心を開いて相手に近づくという意味があります。多言語パークは、参加者の方の母国語での挨拶から始まります。

### 「違いを理解して、共に楽しむ」

世界の人々に目を向けると、言葉、食文化、生活習慣、服装、当たり前の事の基準など、それぞれの国で異なっています。

多言語パークでの食事会では、みんなが共に食べられるものを作ります。イスラム教の方たちは、豚肉以外の鶏肉、牛肉も、決められた屠殺方法のハラール認証のものしか食べることができません。みりんや料理酒は使わず、原材料お酒不使用の醤油を使います。原材料にポークエキスが入っているものも使いません。インドネシア、バングラディシュの方は、カレーも手で食べるのが当たり前。日本の子どもたちは、その姿をじーっと見ていました。

様々なイベントを通じて、それぞれの国にある基準をみんなで体験しています。お互いの違いを知ることはとても楽しく、わくわくする好奇心が生まれてきます。

### 「知らないだけ」

行事の服装など当然と思っていたことが、実は日本の文化や習慣です。入学式に親が何を着ていくのか、ずっと日本で暮らしている私たちには想像がつきますが、外国の方にはわからない。聞ける言える関係性を作ることで、わかっていなかったことに気がつきます。

### 「言葉の壁より、心の壁を乗り越えて」

私たちは、往々にして自分の価値観や基準と違うと違和感から壁を作ってしまいがちです。小さな頃から様々な人と楽しく過ごす環境を作り、子どもたちにも当たり前に助け合う心が育って欲しいと願っています。

多言語パークは外国人親子はじめ、イベントを通じて多世代・様々な特性のある子たちと活動をしています。お手伝いしてくださる方も募集しております。

インドネシアのジャンケンと遊び

### ◇多言語パーク◇

活動日：金曜日午後４～５時
活動場所：町屋ふれあい館
対象：幼稚園児から小学生とその父母
年会費1,000円
連絡先：白井美典（Shirai Minori）
minok2314@yahoo.co.jp
電話：　050-3556-6333
https://ameblo.jp/tagengopark/